

令和 5 年度 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ記録集

事前アンケート (歯学)

令和5年度 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ 事前アンケート<歯学>集計結果

<調査の概要>

本調査は、全国の大学・歯学部を対象に、令和5年度「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」のグループディスカッションの参考にするために実施した。

<調査対象>

全国29大学・歯学部

<調査時期>

令和5年6月

<調査方法>

記名式質問紙調査法(web)

<調査内容>

1. 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえた各大学におけるカリキュラム改革の課題と現状について
2. 研究マインドを持った歯学生養成のための教育方略の実情と課題について
3. 「診療参加型臨床実習」における同意取得について
4. 歯学教育・研究におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)推進の現状について

<回答率>

29大学中、全29大学より回答が得られた。(回答率100%)

<補足>

- ・自由記述に記載のある【】内の数字は同一回答を指す。
- ・自由記述に記載のある〇〇は具体的な県名や大学名を指す。

1. 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム（以下、「コアカリ」という）を踏まえた各大学におけるカリキュラム改革の課題と現状についてお尋ねします。

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」をキャッチフレーズとした令和4年度改訂版コアカリが公開され、令和5年度は周知期間・令和6年度入学者から適用となっています。令和4年度改訂版コアカリの活用に向けた、各大学におけるカリキュラム改革を行う際の課題や対応策についてお尋ねします。

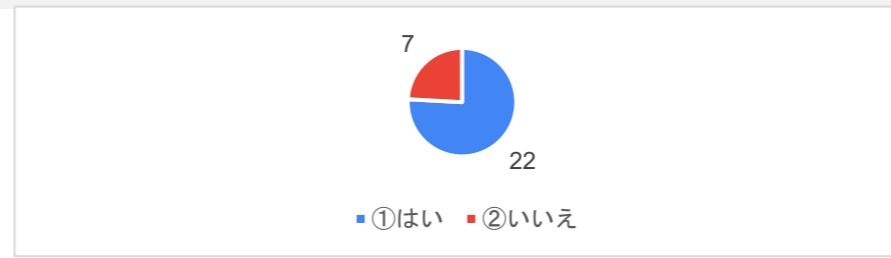
- 1 コアカリが令和4年度に改訂されたことにより、貴学における歯学部の学修成果（アウトカム、コンピテンシー等）を変更しましたか、あるいは変更する予定がありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	15
②いいえ	14



- 2 コアカリが令和4年度に改訂されたことにより、貴学におけるカリキュラムを変更しましたか、あるいは変更する予定がありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	22
②いいえ	7



- 3 前問で「はい」を回答した場合、どのような変更か、それぞれ当てはまるものを選択してください。下記以外に変更がある場合は、「その他」に記載してください。

① 基礎系科目の内容・時間数等

【選択肢】	回答数
①増加	0
②減少	2
③増加した科目と減少した科目がある	8
④変更なし	12

② 臨床系科目の内容・時間数等

【選択肢】	回答数
①増加	1
②減少	2
③増加した科目と減少した科目がある	9
④変更なし	10

③ 診療参加型臨床実習の内容・時間数等

【選択肢】	回答数
①増加	2
②減少	1
③増加した科目と減少した科目がある	5
④変更なし	14

④ 研究体験実習・研究プログラム・研究室配属の内容・時間数等

【選択肢】	回答数
①増加	5
②減少	0
③増加した科目と減少した科目がある	2
④変更なし	15

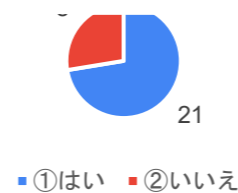
⑤ その他

上記以外の変更がある場合、詳細を記載してください（自由記述・200字以内）。該当がない場合は空欄のまま、次の設問へ進んでください。

- ・科目数の変更、追加ではなく、科目内における内容変更での対応を予定している。一部は教養教育での対応を予定している。
- ・コアカリと現行のカリキュラムの突合の後、必要に応じて変更を予定しているため現在は変更がない。
- ・アウトカム基盤型カリキュラムとして科目間の連携を確認し、カリキュラムマップを見直すとともに、学修成果に対する各科目のパフォーマンスレベルマトリクスを作成した。
- ・隣接臨床医学系の授業を再編予定。
- ・本学はカリキュラム改変に向け、講義の内容や時間数を調整している段階のため、あくまで、予測という意味で回答いたしました。
- ・IT-06、B-3-4への対応の準備として、第5学年の臨床実習時に実施しているデジタルワークフローに関するシミュレーション実習（CAD/CAM修復装置のための治療計画立案、窩洞・支台歯形成、口腔内スキャナーによる光学印象・咬合採得、修復装置の設計・製作）の時間数を増加した。
- ・現在各講座で検討中で、9月の学内WSで発表予定です。次年度のカリキュラムから諸々変更の可能性があります。上記質問の増減については、現段階では未定です。
- ・現在、内容の精査・検討途中です。一部の科目の時間数や統廃合は次年度より実施予定ですが、基本的に現行科目の中での内容調整を想定しています。大幅な改変には1~2年程度を要すると考えております。

- 4 令和4年度改訂版コアカリに対応する上で、貴学における課題はありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	21
②いいえ	8



- 5 前問で「はい」を回答した場合、貴学における【課題】について、全て選択してください（複数選択可）。また、「その他」の場合には、詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

【選択肢】	回答数
①全体的な教育者の不足	12
②新設学修目標を教える専門性をもつ教育者の不足	14
③教育統括部門の教員の不足	11
④設備・備品の不足	7
⑤教材の不足	4
⑥資金の不足	6
⑦授業や実習時間の不足	5
⑧準備のための時間の不足	10
⑨教員に対するファカルティ・ディベロップメント	9
⑩カリキュラムの肥大化	7
その他	0

- 6 前問4で「はい」を回答した場合、課題に対する貴学の【対応】について、【全て】選択してください（複数選択可）。また、「その他」の場合には、詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

【選択肢】	回答数
①ファカルティ・ディベロップメント等研修の促進	14
②教員の雇用	3
③学外講師の活用	9
④オンデマンド教材の活用	12
⑤設備の改修や増設、備品の購入	7
⑥教材開発の促進・外部教材の活用	5
⑦診療報酬、研究費、寄付等による資金獲得の促進	6
⑧カリキュラムの調整	17
⑨教職員の業務量や労働時間の見直し	8
⑩単位互換制度等、他大学の授業・プログラムの活用	2
その他	0

- 7 令和4年度改訂版コアカリについて、貴学において周知活動を行っていますか。

【選択肢】	回答数
①はい	28
②いいえ	1



- 8 前問で、「はい」を回答した場合、貴学教員に対して行っている【周知活動の方法】に該当するものを全て選択してください（複数回答可）。また、「その他」の場合には、詳細を記載してください（自由記述・200字以内）。

【選択肢】	回答数
①メールでの周知	18
②学内会議での周知	23
③ファカルティ・ディベロップメントの実施	14
④学外閲覧者が確認可能なホームページでの公開	2
⑤学外閲覧者が確認不可能なホームページでの公開	3
その他	0

- 9 貴学で令和4年度改訂版コアカリを活用するために参考になっている項目について全て選択してください。また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

【選択肢】	回答数
①歯学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方	22
②歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の概要	26
③第1章 歯科医師として求められる基本的な資質・能力	25
④第2章 学修目標の本文	22
⑤第2章 学修目標に含まれる診療参加型臨床実習の内容と分類	24
⑥第2章 学修目標に含まれる別表	20
⑦第3章 学修方略・評価の本文	19
⑧第3章 学修方略・評価に含まれる方略・評価の事例	18
⑨診療参加型臨床実習実施ガイドライン	25
⑩参考資料1 資質・能力をかん養する学修目標を含む主な小項目	14
⑪参考資料4 医師・歯科医師・薬剤師が関わる法令一覧	10
⑫参考資料5 略語集	9

⑬可変媒体 (Word)	2
その他	0

10 貴学での令和4年度改訂版コアカリの活用方法について、概要を回答してください（自由記述・200字以内）。

- ・シラバスの作成時における内容の検討。
- ・モデルコアカリとコンピテンシーの整合性を検討しています。
- ・改訂内容を全教職員に周知し、出来るだけ講義、実習に反映させる。
- ・従来のおり。
- ・積極的には活用していない。
- ・現カリキュラムと照らし、補強すべき点及び本学で完遂が難しい部分への対応の調整を図っている。
- ・各講座の担当する講義および実習がコア・カリキュラムの範囲を十分に網羅しているか確認に用いている。
- ・現行カリキュラムに含まれるものと新たにカバーすべき項目の洗い出しに使用。
- ・各科目におけるシラバス作成時の参考として使用。
- ・それぞれの科目のシラバス作成時に活用します。定期試験作問時に活用します。また、学生の講義時に該当コアカリを示すことにも活用します。
- ・メールにて教員に周知し、授業内容を検討して頂いている。
- ・各分野で共有し、授業科目の認定、教育手法や履修順などを設定するのに利用している。
- ・コアカリと現状の本学シラバスについて突合を行い、新たに追加されたもしくは変更された項目を中心にカリキュラムの見直しを行う。
- ・令和6年度入学生から各科目で教育内容を網羅し、さらに使用できるよう準備している。
- ・今後予定している本学のカリキュラム改定に活用したいと思います。
- ・シラバス作成時における科目担当責任者による教授内容についての確認。カリキュラム修正改変。
- ・歯学部分野編成、適材適所の教職員人事配置の参考として活用している。
- ・コアカリに示された学修目標をもとに、卒業時に学生に求める「学修成果」を見直し、それをカリキュラムに反映させた。
- ・令和4年版モデルコアカリキュラムのキャッチフレーズである【未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成】に向けて、カリキュラム策定に役立てたい。従来の第2章部分は継続し教科ごとの改訂部を読み直し、第1章部分は内容の確認を、また第3章には具体的な例示を参考にして方略・評価の事例が多数掲載されているため参考にしたい。
- ・歯科医師として求められる10の基本的な資質・能力を修得できるよう、学習目標を参考に講義内容を見直し、学修方略を考える。
- ・各科目の講義内容や必要授業時間を決める際に活用している。
- ・令和6年度 第1学年以降のシラバス作成に反映。
- ・現行のカリキュラムを点検・評価して新しいコアカリに対応できるようにしている。
- ・現在のカリキュラムと照らし合わせ、過不足を現在各講座が洗い出しております。9月に集計結果を学内WSで発表予定です。
- ・学修内容と臨床実習内容の検討。
- ・カリキュラム立案。
- ・科目内容の検討。
- ・検討中です。
- ・カリキュラム・ポリシーとの整合性の確認および全科目のコアカリ対応表作成のための資料とする。
- ・コアカリ項目と現行科目・シラバス内容との整合性の確認と、それを踏まえたカリキュラム改変の検討。

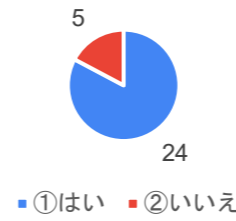
2. 研究マインドを持った歯学生養成のための教育方略の実情と課題についてお尋ねします。

平成28年度改訂版コアカリの「A-8 科学的探究」「A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢」が、令和4年度改訂版コアカリにおいても「LL:生涯にわたって共に学ぶ姿勢」「RE:科学的探究」として引き継がれ、さらに、令和4年度改訂版においては「PS:専門知識に基づいた問題解決能力」が追加された。研究活動の活性化のための課題や実態について議論を行うとともに、リサーチマインドの醸成のための方略について検討する。

参考) RE:科学的探究 (Research)
 社会に適応する医学を創造していくために、医学・医療の発展のための歯学研究の重要性を理解し、科学的・批判的思考を身に付けながら学術・研究活動に関与していく。

1 研究マインドを持った歯学生養成のための歯学研究教育を臨床実習開始前に実施していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	24
②いいえ	5



2 前問1で、「はい」を選択した方へ、教育の実施期間、実施時期、講義コマ数、研究教育の内容についてお尋ねします。

- ① 教育の実施期間を回答してください。
 (記入例) ○年、○年○ヶ月

実施期間	回答数
1ヶ月	2
3ヶ月	2
3ヶ月+α	1
希望者のみ3か月間程度	1
4ヶ月	1
5ヶ月	2
6ヶ月	2
7か月	1
2年次4か月、5年次3か月	1
1~5年(開始した学年による)	1
必修科目として1年、選択科目として5年6ヶ月	1
1年3ヶ月	1
1年4ヶ月	1
関連する選択科目を履修するかにもよるが、概ね2年	1
2年4ヶ月	1
2年5か月、3年5か月(ただし選択制で、必修ではない)	1
通算3年 《参考》①研究入門Ⅰ(0.5単位必修1年後期)、②研究入門Ⅰα(1単位自由1年後期)、③研究入門Ⅱ(0.5単位必修2年後期)、④研究入門Ⅱα(1単位自由2年後期)、⑤研究入門Ⅲ(0.5単位必修3年後期)、⑥研究実習Ⅰ(7単位必修3年後期)、⑦研究実習Ⅱ(1単位必修4年前期)	1
4年間	1
10年	1
開始時期、実施時期は自由なので、実施期間は学生によって異なります。【卒業論文の作成】	1

- ② 実施時期(開始時期)を回答してください。
 (記入例) ○年次○月
- ③ 実施時期(終了時期)を回答してください。
 (記入例) ○年次○月

実施開始時期	実施終了時期	回答数
1年次4月	3年次8月	1
1年次4月	4年次3月	1
1~5年の各学年次4月	1~5年の各学年次3月	1
1年次10月	5年次7月	1
①1年次後期(必修)、②1年次後期(自由)、③2年次後期(必修)、④2年次後期(自由)、⑤3	①1年次後期(必修)、②1年次後期(自由)、③2年次後期(必修)、④2年次後期(自由)、⑤3年次後	1

年次後期(必修)、⑥3年次後期(必修)、⑦4年次前期(必修)	期(必修)、⑥3年次後期(必修)、⑦4年次前期(必修)	
2年次4月	4年次3月	1
2年次4月、5年次4月	2年次12月、5年次7月	1
2年次9月、3年次9月	2年次1月、3年次1月	1
2年次9月	2年次2月	1
2年次10月	2年次2月	1
2年次10月	2年次3月	1
2、3年次2月	2、3年次3月	1
3年次4月	3年次7月	2
必修科目は3年次4月、選択科目は1年次10月	必修科目は3年次2月、選択科目は6年次2月	1
3年次5月	3年次12月	1
3年次9月	3年次10月	1
3年次10月	3年次11月	1
3年次10月	3年次12月	1
3年次10月	3年次2月	1
4年次4月	5年次6月	1
4年次4月	5年次7月	1
5年次	5年次	1
開始時期、実施時期は自由なので、実施時期は学生によって異なります。【卒業論文の作成】	開始時期、実施時期は自由なので、終了時期は学生によって異なります。【卒業論文の作成】	1

- ④ 講義コマ数を回答してください。
(記入例) 90分×10コマ

講義コマ数	回答数
0	1
50分×30コマ	1
60分1コマ ×1~2回/週	1
60分×90コマ	2
60分×5コマ ×5日/週×8週	1
(実習) 60分 135コマ	1
70分×38コマ	1
80分×15コマ	1
80分×23コマ	1
90分×8コマ	1
90分×15コマ	2
90分×30コマ	1
90分×32コマ	1
90分×34コマ	1
最大90分×56 コマ	1
90分×117コマ +選択科目 90 分×30コマ	1
必修科目で90 分×120コマ (実習含 む)、選択科 目は年間90分 ×60コマ	1
90分×135コマ	1
90分×232コマ	1
3か月間ほぼフ ルタイム	1

①0.5単位、②1単位、③0.5単位、④1単位、⑤0.5単位、⑥7単位、⑦1単位 通算3年 《参考》①研究入門Ⅰ(0.5単位必修1年後期)、②研究入門Ⅰα(1単位自由1年後期)、③研究入門Ⅱ(0.5単位必修2年後期)、④研究入門Ⅱα(1単位自由2年後期)、⑤研究入門Ⅲ(0.5単位必修3年後期)、⑥研究実習Ⅰ(7単位必修3年後期)、⑦研究実習Ⅱ(1単位必修4年前期)	1
開始時期、実施時期は自由なので、学生によって異なります。【卒業論文の作成】	1

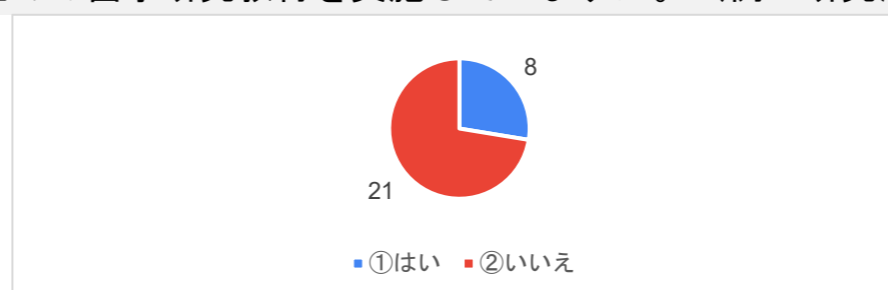
3 研究教育活動の内容 について全て選択してください（複数選択可）。また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

【選択肢】	回答数
①統計学を学ぶ授業・実習等への参加	9
②論文抄読実施	12
③学内における研究室配属	22
④学外（国内）における研究室配属	3
⑤学外（海外）における研究室配属	3
⑥研究計画の策定	15
⑦教職員が計画した研究の実施	18
⑧学生自身が計画した研究の実施	14
⑨学内における研究成果の発表（日本語）	20
⑩学内における研究成果の発表（英語）	6
⑪学外（国内学会等）における研究成果の発表（日本語）	14
⑫学外（国際学会等）における研究成果の発表（英語）	12
⑬国内学術誌における論文発表（日本語）	5
⑭国際学術誌における論文発表（英語）	3
その他	3

【その他】
<ul style="list-style-type: none"> ・配属研究室により国内学会への発表や論文発表を行うことがある。 ・学生は少数に分かれ、希望分野へ配属されるため、配属先の指導体制による差がある。正規の配属期間終了前後も研究の継続が可能となっている。 ・選択回答の補足：①と②は全員、③から⑭は希望者のみ。

4 臨床実習中に研究マインドを持った歯学生養成のための歯学研究教育を実施していますか。（例：研究活動への参加等）

【選択肢】	回答数
①はい	8
②いいえ	21



5 前問4で、「はい」を回答した場合、研究教育の概要について、全て選択してください（複数選択可）。また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内）。

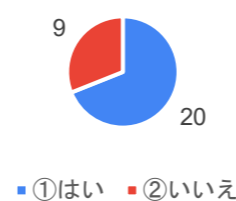
【選択肢】	回答数
①論文抄読実施	4
②臨床実習前の学年において配属された研究室における研究の継続	7
③大学院進学を希望する分野における研究の実施	5
④臨床実習の指導教員の研究に対する協力	2
⑤臨床実習に関連した研究の実施	1

その他	1
-----	---

【その他】
・ 選択回答の補足：①から⑤とも希望者のみ ・ 初めて配属を希望する研究室における研究（②も含め、選択科目として設定）

6 研究マインドを持った歯学生養成のための歯学研究教育を実施する上で課題はありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	20
②いいえ	9



7 前問6で「はい」を回答した場合、課題の概要について、全て選択してください（複数選択可）。また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

課題【選択肢】	回答数
①教育者の不足	12
②設備・備品の不足	6
③教材の不足	0
④資金の不足	9
⑤時間の不足	14
⑥学生のモチベーションのコントロール	19
その他	0

8 前問6で「はい」を回答した場合、想定される対応について、全て選択してください（複数選択可）。また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

対応【選択肢】	回答数
①ファカルティ・ディベロップメント等研修の促進	5
②設備の改修や増設、備品の購入	7
③教材開発の促進	0
④研究費、寄付等による資金獲得の促進	11
⑤教職員の業務量や労働時間の見直し、カリキュラムの調整	17
⑥面談等の実施による学生のメンタルヘルス対応	7
その他	1

【その他】
・ 教育関連会議での説明と指導の依頼。

9 卒後研修・大学院へとつなげるために、研究マインドを持った歯学生養成のための歯学研究教育を実施する上で工夫している点はありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	21
②いいえ	8



10 前問9で「はい」を回答した場合、工夫している点について、全て選択してください（複数選択可）。また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

【選択肢】	回答数
①教育者の研究指導能力の支援	2
②研究費用の支援	4
③学生の学会や論文発表の支援	15
④学生の海外における研究体験の支援	6
⑤優秀な学生に対する表彰及び支援	15
⑥学生のメンタルヘルスのサポート	7
⑦終了後も学生が研究を継続できる機会の提供	15
その他	2

【その他】
・ 若手研究者の研究に触れる機会の提供。 ・ 第3学年で研究室配属となった学生を全員、卒業まで学内学会の学生会員（会費無料）として入会させている。

11 現在、研究医養成プログラム（DDS-PhDコース等）を設置していますか。

【選択肢】	回答数
①はい	2
②いいえ	27



12 前問11で、「はい」を回答した場合、現時点までのプログラムの累計実施期間を記載してください。

①（記入例）5年6ヶ月等

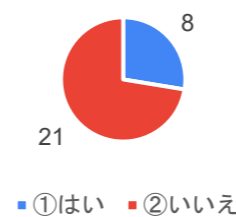
累計実施期間	回答数
12年9か月	1
15年3月	1

- ② 前問11で、「はい」を回答した場合、現時点までのプログラム累積実施期間で、修了した人数を記載してください。
 (記入例) 10
 ※“人”“名”などの単位を付けず、人数のみ数字で入力

修了した人数	回答数
0	1
2	1

- 13 大学内に研究医養成のための組織（あるいは委員会など統括する組織）はありますか。

【選択肢】	回答数
①はい	8
②いいえ	21



- 14 前問13で、「はい」を回答した場合、組織の機能の概要について、全て選択してください（複数選択可）。また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

【選択肢】	回答数
①若手研究者支援	5
②研究・産学官連携活動支援	1
③国際共同研究支援	1
④学内の分野間の共同研究支援	3
⑤研究施設設備、研究機器、備品等の管理	1
⑥統計、剽窃チェック等、論文執筆に関する支援	2
その他	2

【その他】

- ・現在、学部生に対する活動が機能している状況とは言えないため、組織の概要については、「その他」と回答いたしました。
- ・「大学院研究科運営委員会」が一つのプログラムとして担当。

- 15 自大学を卒業した歯学生の大学院への進学状況を選択してください。
 (※ 他大学大学院への進学状況がわからない場合には、自大学の大学院への進学状況についてお答えください。)

大学院進学割合【選択肢】	回答数
①1割未満（自大学・他大学）	4
②2割（自大学・他大学）	4
③3割（自大学・他大学）	4
④4割（自大学・他大学）	1
⑤5割以上（自大学・他大学）	0
⑥1割未満（自大学のみ）	5
⑦2割（自大学のみ）	7
⑧3割（自大学のみ）	2
⑨4割（自大学のみ）	1
⑩5割以上（自大学のみ）	1
⑪不明（自大学・他大学）	0

3. 「診療参加型臨床実習」における同意取得についてお尋ねします。

「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」では、令和6年度に共用試験を公的化するとともに、合格した学生は一定の水準が公的に担保されることから、臨床実習において歯科医行為を行う、いわゆるStudent Dentistを法的に位置付けることとしている。一方、歯学生が診療に参加する上で、患者安全への配慮を検討する必要がある。「診療参加型臨床実習」を安全に推進させるための同意取得の課題や実態について議論を行うとともに、その方略について検討する。

1 臨床参加型実習の実施期間を回答してください。

① (記入例) ○年○ヶ月

実施期間	回答数
10ヶ月	2
10ヶ月程度	1
11ヶ月	3
1年(休暇を除けば44週)	1
1年	11
1年0.5カ月	1
1年1か月	6
1年2か月	2
1年6月	1
5年10カ月	1

② 臨床参加型実習の開始時期を回答してください。

(記入例) ○年次○月

③ 臨床参加型実習の終了時期を回答してください。

(記入例) ○年次○月

開始時期	終了時期	回答数
5年次4月	5年次1月	1
5年次4月	5年次2月	3
5年次4月	5年次3月	6
5年次4月	6年次4月	3
5年次4月	6年次5月	3
5年次5月	6年次4月	1
5年次9月	6年次9月	3
5年次9月	6年次10月	1
5年次9月	6年次3月	1
5年次10月	6年次9月	4
5年次10月	6年次10月	1
5年次12月	6年次9月	1
5年次12月	6年次11月	1

2 歯学生が診療に参加することについて貴学病院ではどのように説明・同意を得ていますか。すべて選択してください(複数選択可)。また、「その他」の場合には詳細を記載してください(自由記述・200字以内)。

【選択肢】	回答数
①院内掲示	23
②病院ホームページに掲示	12
③書面による包括同意	18
④書面による個別同意	15
⑤口頭同意	15
⑥説明・同意なし	0
その他	1

【その他】

・書面による個別同意の様式が完成したところで、現在、運用開始待ち。

3 貴学病院では、診療参加型臨床実習への協力患者をどのようにして募っていますか。全て選択してください(複数選択可)。また、「その他」の場合には詳細を記載してください(自由記述・200字以内)。

【選択肢】	回答数
①患者の自発的な意思	15
②病院初診患者から選別、同意取得	21
③再診患者から選別、同意取得	19
④学生の紹介(家族、親族、知人等)	12
⑤教職員の紹介(家族、親族、知人等)	4
⑥他院からの紹介	1
その他	2

【その他】

・全来院患者を対象に協力患者を募っている。(協力患者を募って、来院をお願いすることはない)
 ・新入生を対象とした歯科検診を実施し、歯学部附属病院での治療を希望する学生から同意が得られた場合には臨床実習への協力を依頼する。

- 4 前問3で「②病院初診患者から選別、同意取得」「③再診患者から選別、同意取得」を回答した場合、患者から同意を得るために工夫している点について、全て選択してください（複数選択可）。
また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

※前問3で「②病院初診患者から選別、同意取得」「③再診患者から選別、同意取得」を選択した場合のみ回答願います。該当しない場合は、この設問は回答せずに次の設問へ進めてください。

【選択肢】	回答数
①通常より安い料金設定としている	2
②指導體制が充実しており、丁寧に診療してもらえらることを説明している	14
③歯学教育に貢献できることを説明している	19
④通常より会計の待ち時間を少なくする等、サービス等の面でメリットを付与している	3
⑤理解しやすいポスター等を掲示している	4
⑥待合室等で理解しやすい説明の動画を流している	1
⑦理解しやすいリーフレット等を渡している	3
⑧通常より診療までの期間を短縮している	4
その他	0

- 5 歯学生が診療に参加することについて学外施設ではどのように説明・同意を得ていますか。全て選択してください（複数選択可）。

【選択肢】	回答数
①施設内掲示	4
②施設ホームページに掲示	0
③書面による包括同意	2
④書面による個別同意	2
⑤口頭同意	9
⑥説明・同意なし	0
⑦把握していない	0
⑧学外施設で歯学生は診療に参加していない	15

- 6 いわゆるStudent Dentistの法制化及び令和4年度改訂版コアカリの「診療参加型臨床実習実施ガイドライン」を踏まえ、歯学生が行う歯科医行為について、患者から書面による個別同意を取得すべきだと考える歯科医行為はどれですか。全て選択してください（複数選択可）。
また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内）。

【選択肢】	回答数
①抜歯	26
②抜髄・感染根管治療	22
③歯周外科	26
④生活歯の支台歯形成	21
⑤失活歯の支台歯形成	20
⑥補綴治療（固定・可撤性）	18
⑦局所麻酔	19
その他	2

【その他】
・通常診療で取得していないものについては不要。同意取得している手技については、書類上に学生が参画する旨、追加記載し同意をいただければいいと考えています。 ・コンポジットレジン充填、インレー修復。

- 7 いわゆるStudent Dentistの法制化や令和4年度改訂版コアカリの「診療参加型臨床実習の内容と分類」を踏まえて、診療参加型臨床実習を行う際に課題はあると思いますか。

【選択肢】	回答数
①はい	25
②いいえ	4



- 8 前問7で、「はい」を回答した場合、さらに診療参加型臨床実習を充実させ、卒後臨床研修へとつなげることを念頭に置き、課題について考えられることを、全て選択してください（複数選択可）。
また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

課題【選択肢】	回答数
①患者の診療参加型臨床実習に対する理解の不足	13
②卒前臨床実習と卒後臨床研修の運営システムの不連続性	13
③学生の自験症例の不足	18
④指導教員の数や質の不足	18
⑤学生の診療参加型臨床実習に費やせる時間の不足	7
⑥設備・備品の不足	8
⑦学内外における実習体制の不十分さ	6
その他	2

【その他】

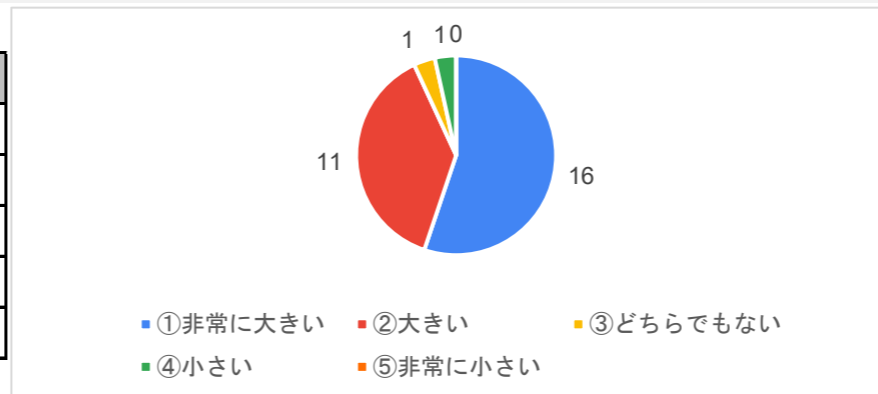
- ・担当できる患者さんの症例不足
- ・力量の個人差が大きい学生を、自験可能なレベルに押し上げるためのシミュレーション実習等の実施が、時間的にも人員数的にも困難であること。

9 前問7で、「はい」を回答した場合、さらに診療参加型臨床実習を充実させ、卒後臨床研修へとつなげることを念頭に置き、対応について考えられることを、全て選択してください（複数選択可）。
また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

対応【選択肢】	回答数
①患者に対する診療参加型臨床実習の周知活動の実施	17
②卒前臨床実習と卒後臨床研修の運営システムの統一化	18
③学生の自験症例の増加	19
④指導教員の数の増加や質の担保	18
⑤学生の診療参加型臨床実習に費やせる時間の増加	8
⑥設備の改修や増設、備品の購入	8
⑦学内外における実習体制整備、改善	7
その他	0

10 今年度から実施するOSCEの公的化について、貴学への負担感はどの程度でしょうか。

【選択肢】	回答数
①非常に大きい	16
②大きい	11
③どちらでもない	1
④小さい	1
⑤非常に小さい	0



11 OSCEの公的化に関連して、どのような点で負担感がありますか（複数選択可）。
また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

【選択肢】	回答数
①内部評価者の人員の確保	25
②外部評価者の受け入れ	10
③外部評価者の派遣	19
④認定評価者講習会の開催日や受け入れ人数	24
⑤認定評価者講習会受講に関連する時間的負担	27
⑥認定評価者講習会受講に関連する金銭的負担	22
⑦設備・器材等の環境	18
⑧カリキュラムに対する影響	13
⑨院内診療科の協力を得ること	11
⑩模擬患者の確保	22
⑪追試験及び再試験の実施	23
⑫事務スタッフの人員確保	13
その他	0

4. 歯学教育・研究におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）推進の現状についてお尋ねします。

1 教育におけるDX推進を支援する部門の設置や担当者の配置を実施していますか。

【選択肢】	回答数
①設置（配置）している	11
②設置（配置）していない	18



2 前問で「設置（配置）している」を回答した場合、部門（担当者）の名称、人員の規模、具体的な活動内容をご記載ください（自由記述・200字以内）。

部門（担当者）の名称	人員の規模	具体的な活動内容
歯学教育学講座	教員4名	記載なし。
デジタル歯学教育部会	臨床系教室より各1-2名の部会委員	顧問教員に工学系AI専門教授をおく。これまで年1回開催している。
ICT運営委員会	13名	学生教育に関する環境を整える。
情報推進センター	3名	大学全体のDX推進について検討する委員会を設置して活動している。
歯学部教育DX委員会	14名	教学におけるDXの有効活用について検討。
総合歯科臨床教育学分野、医療教育開発センター	教授1、准教授1、助教4	教育におけるDX推進を支援する。
情報教育センター	記載なし	記載なし。
全学教育推進機構委員会	構成員15名	DXに関する活動歴が浅く具体的な取り組みは記載なし。
記載なし	教務部を中心にワーキンググループ（6名）を形成し検討中	責任者は、矯正学講座の〇〇教授。検討内容を9月の学内WSで発表し、次年度以降の教育に反映させていく予定である。
デジタル変革推進タスクフォースの教育DXチーム	教員7名、事務職員5名の12名の教職員で構成	学内の教育部門におけるDXのニーズを調査し、デジタル変革推進タスクフォース及び学長が本部長を務めるデジタル化推進本部会にDX施策を提案の上、実行している。現在は、学部入学者の入学手続き書類のWeb化を検討している。
ICT活用部会	教員8名+担当事務職員	授業へのICT活用方法の提案とFD開催、教員へのICT活用サポート、学内書類・手続きのDX化推進など ICT 活用関連全般にわたる情報収集と提供など。

3 AR(拡張現実)・VR(仮想現実)・メタバースなどを活用した実習教育・シミュレーション教育を実施していますか。

【選択肢】	回答数
①実施している	9
②設置はあるが実施していない	2
③実施しておらず設備もない	18



4 前問3で「①実施している」を回答した場合、対象となる学年・具体的な実習内容をご記載ください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

対象となる学年	具体的な実習内容
1年次	数理・データサイエンス・AI。
2年次	口腔解剖学 顎顔面領域の解剖学的構造を三次元的に学修する。
3年次	歯科治療トレーニングシステム（Simodont）を用いて ① 保存修復学実習における歯の切削（鏡視下による切削技術の確認と評価） ② 早期臨床実習Ⅱにおける切削体験 IOSを用いて ③ 歯冠修復学実習におけるCAD/CAMデザイン ④ 歯の形態学における歯冠形態の学習
4年次	CADを用いた全部床義歯排列実習（義歯製作のワークフロー、人工歯排列のシミュレート等）。
4年次口	クラウンブリッジ補綴実習でCAM/CADを用いたデジタルワックスアップ実習。
歯学科4年生	記載なし。
4年次・5年次口	AR(拡張現実)・VR(仮想現実)・メタバースなどを活用した実習教育・シミュレーション教育。
4年次～6年次	各種実習における電子ポートフォリオの活用。
5年次	矯正歯科実習でデジタルトレース実習にAffinity Designer をもちいて歯の移動の計画およびKeynote iPadを用いてデジタルトレースを行っている。
5年次	感染対策実習。
5年次	AIロボットを用いた窩洞形成、医療面接などの実習を行っている。
5年生	口腔外科手術のシミュレーション教育。
	デジタル歯科用シミュレーターによる歯の切削を伴う様々な臨床技

4年次～6年次、 2年次～4年次、 全学年	能向上支援、組織学・病理学実習のバーチャルスライドを用いた実施、 人体解剖を3Dで可視化する学習ツール（Visible Body: Human Anatomy Atlas）提供による自学サポート。
-----------------------------	---

5 前問3で「①実施している」「②設備はあるが実施していない」を回答した場合、具体的な設備の内容をご記載ください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

具体的な設備の内容
・医学部所有のアナトマジテーブルが歯学部として使用はしていない。近いうちに使用予定である。
・デジタル歯学教育部会で購入した10台のiPadと学生が持っているコンピュータ。
・学内に設置されているXR研究所を活用している。
・VR動画を作成し、本年度より実習にて利用。
・AIロボットを用いている。VRについて、数十台購入し講義への導入を検討している。
・歯科治療トレーニングシステム（Simodont）、CAD/CAM、各種実習における電子ポートフォリオ。
・シムロイド（患者ロボットシミュレーションシステム）を導入しているが、100名を超える学生では、対応が難しく、現在はアドバンスコースで希望者に体験させている。 simodont（バーチャルシミュレータ）は台数を増やして、今後学生実習で使用する予定。
・VRヘッドマウントディスプレイ 80台を使用して、病院実習中の学生に口腔外科手術教育を実施しています。
・VRゴーグル（110台）、管理用iPad4台、ルーター4台、移動式電源付き保管庫8台、スマートグラス20台、スマートグラス専用Wi-Fi20台、シモドントデンタルトレーナー3台、360°カメラ（専用機材含む）2セット、動画編集用PC1台、動画アップロード専用PC1台。
・歯の切削を伴う様々な臨床技能についてリアルタイムに評価するシステムを備えた3Dバーチャルリアリティ技術によるデジタル歯科用シミュレーターによる向上支援、組織切片資料の自動スキャン顕微鏡とバーチャルスライドソフト、Visible Body: Human Anatomy Atlas の購入。

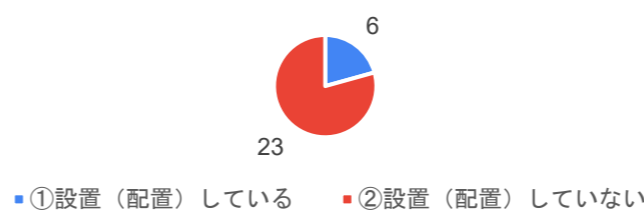
6 教育におけるDX推進における課題はありますか。該当するものを全て選んでください（複数選択可）。また、「その他」の場合には詳細を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

課題【選択肢】	回答数
①DX推進のノウハウを持った人材の不足	24
②メリットが見えにくい	1
③十分な予算がない	23
④既存の業務で手一杯であり取り組めない	14
⑤ソフトウェア等の使い勝手	6
⑥既存のハードウェアや通信設備の老朽化・陳腐化	11
⑦設備を整備しても利用されない	2
⑧特に課題はない	2
その他	2

【その他】
・関連機器の維持管理、メンテナンス。 ・専任の人材確保が出来ていない。

7 研究におけるDX推進を支援する部門の設置や担当者の配置を実施していますか。

【選択肢】	回答数
①設置（配置）している	6
②設置（配置）していない	23



8 前問7で「設置（配置）している」を回答した場合、部門（担当者）の名称、人員の規模、具体的な活動内容（支援実績を含む）をご記載ください（自由記述・200字以内）。

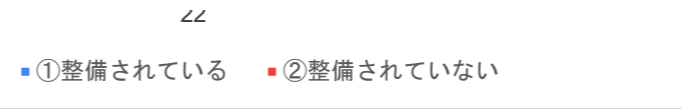
部門（担当者）の名称	人員の規模	具体的な活動内容
T-DEC（CAD/CAMセンター）	1～5名	IOSとCAD/CAM製作に関する研究。
ICT運営委員会	13名	記載なし。
口腔診断・情報科学	教授1、准教授1、助教3	研究におけるDX推進を支援する。
記載なし	教務部を中心にワーキンググループ（6名）を形成し検討中	責任者は、教務部長の〇〇【解剖学教授】。検討内容を9月の学内WSで発表し、次年度以降の教育に反映させていく予定である。
デジタル変革推進タスクフォースの研究DXチーム	教員8名、事務職員1名の9名の教職員で構成	学内の研究部門におけるDXのニーズを調査し、デジタル変革推進タスクフォース及び学長が本部長を務めるデジタル化推進本部会にDX施策を提案の上、実行している。現在は、学内共同実験施設と各研究室間のデータの受け渡しを効率化できるシステムの構築を検討している。
上述したICT活用部会が兼任		

9 研究DX推進のための研究デジタルインフラ（スパコン、学術情報ネットワークSINET等が利用できる環境）は整備されていますか。

【選択肢】	回答数
①整備されている	7



②整備されていない	22
-----------	----



10 大学の設備としてリモート研究を可能にする環境構築や、実験の自動化を実現するスマートラボ等は整備されていますか。

【選択肢】	回答数
①整備されている	0
②整備されていない	29



11 AI（人工知能）・データ駆動型研究開発を支える専門人材の育成など、研究DX推進のための人材育成を行っていますか。

【選択肢】	回答数
①行っている	3
②体系的な人材育成は行っていない	26



12 研究におけるDX推進における課題はありますか。該当するものを全て選んでください（複数選択可）。また、「その他」の場合には概要を記載してください（自由記述・200字以内。複数ある場合は、「,」で区切ってご記載ください）。

【選択肢】	回答数
①DX推進のノウハウを持った人材の不足	27
②AI・データ駆動型研究開発を支える専門人材の不足	26
③高品質な研究データの不足	8
④メリットが見えにくい	1
⑤十分な予算がない	25
⑥既存の業務で手一杯であり取り組めない	19
⑦ソフトウェア等の使い勝手	3
⑧既存のハードウェアや通信設備の老朽化・陳腐化	11
⑨設備を整備しても利用されない	2
⑩特に課題はない	3
その他	0